12 1 H	3年度 教職員・保護者アップード福来及い自己計画 評価基準 ◎十分達成されている		ァ おむね達	成されて	いる	△半分程度達成されている ×努力が必要である	
学校運営方針/具体的取組(評価の観点)		アンケート状況			自己評	成果と課題	改善策
1 危機管理意識を高くもち、安全安心な学校をつくる。			教職員(%)	保護者(%)	一個		
(1)	【教職員】 学校は、スクールバス乗車規定や危機管理マニュ アル等の策定と運用を適切に行い、児童生徒への 安全指導を十分に行っている。	В	69% 31%	67% 24%	·	◇規定やマニュアルの見直しを行い整備するとともに、乗車指導や自力通学指導を計画的に進めることで安全に通学できるよう指導することができた。 ◇小学部で実施している徒歩学習は6年間を通じて継続的に学習しており、基本的なルールやマナーを身に付けることができている。 ◆学習活動とその目的を丁寧に説明する必要がある。	・これからも、年度始めに教職員への説明を行い共通理 解を図りながら、児童生徒の発達段階に応じて適切な 時期に必要な指導を行う。 ・学部や学年で実施している取組については、保護者会 や学部だより等で目的や内容を今後も丁寧に説明す
	【保護者】 学校は、スクールバス乗車指導や自力通学指導、 また交通安全教室や徒歩学習等を通して、安全に	С	0%	3%			る。
	マナーを守って通学できるよう指導している。	D	0%	0%			
		Е		2%			
	【教職員】 学校は、危機等に向けた訓練や施設設備の安全 管理等、危機意識をもち取り組んでいる。	А	80%	84%		◇保護者の協力を得て引き渡し訓練を実施した。引き渡しにおける課題を把握し、次回の訓練に向けて改善することができた。 ◇保護者が実際に訓練に参加したことや訓練の様子がテレビで取り上げられたことは、保護者が学校の学習活動を知るよい機会となった。保護者からも特に良い評価を得ている。	・必要な改善を行いながら訓練等を継続して実施し、教職員間の連携を強めていく。
		В	20%	12%			
(2)	【保護者】 学校は、様々な避難訓練や引き渡し訓練を通し て、緊急時に向けた指導をしている。	С	0%	0%			
		D	0%	0%			
		Е		0%			
	【教職員】 学校は、感染症対策を適切に行い安全安心な環 境を整備している。	A	76%	63%	 ©	◇定期的な施設設備の点検を実施し、安全な環境を整備することができた。	・県の指針・指導に則り、引き続き、マスクの着用が難しい、近距離での支援が必要な児童生徒への対応等、教員一人一人に基本的感染症対策と健康管理を適切な
		В	24%	29%			対策を講じる。
(3)	【保護者】 学校の教室や廊下等の施設設備や感染症対策は 適切である。	С	0%	2%			・教室の環境整備に必要な物品が適切に配置できるよ うにする。
		D E	0%	0% 2%			
	【教職員】 学校は、いじめの未然防止・早期発見に向けた教 員間の連携・組織的な対応が十分できている。				-	◇教職員向けの研修等を通して教職員のいじめに対する認識が向上していきている。また日頃から学級の児童生徒の様子を丁寧に観察し、些細な変化や気になることを主事、生徒指導部長を中心に管理職と相談できる体制が整っており、未然防止、早期の対応ができている。	・懇談の際には、保護者が困り感を話せるようなやりとりを心掛ける。・保護者へは継続して教育相談の利用も促せるよう懇談等で散らしを配付し周知する。
		A 	75%	62%			
		В	24%	24%			
(4)	【保護者】 お子様の学校生活の不安や悩みを教職員に気軽 に相談できる雰囲気がある。	С	0%	7%		◆学校に来る機会が減ったことや懇談時間の短縮等により、相談しにくいと感じる 保護者もいる。	
		D	0%	2%			
		Е		1%			
	【教職員】 学校は、児童生徒の人権を尊重し、自己肯定感を 高められるような指導を行っている。 【保護者】 教職員の言葉遣いや対応は親切で誠意がある。	А	55%	70%		◇教職員対象の研修の実施、月始めの人権目標の共有、また学部会において主事を中心に人権意識を確認することを通して、人権意識をもった指導の重要性を繰り返し伝え、教職員の意識の醸成を図ることができた。保護者からもおおむね良い評価を得ている。 ◆進路指導や生徒指導に関する指導やそのことに関する保護者とのやりとりの際は、いつも以上に冷静に、相手の反応を見ながら対応する必要がある。	者が誤解をしないような言葉を選ぶなど、丁寧かつ誠 意あるやりとりを心掛ける。
(5)		В	41%	20%			
		C	4%	4%			
		D	0%	2%			
l		F		Λ%		I and the second	

令和3年度 教職員・保護者アンケート結果及び評価及び改善策(案)

	-及 教職員 体設省アンプー相来及び計画及びは 評価基準 ©十分達成されている (おむね達	成される	ている	△半分程度達成されている ×努力が必要である	
学校運営方針/具体的取組(評価の観点)			アンケート状況		自己	成 果 と 課 題	改善策
2 様々な方面における社会に開かれた学校づくり			教職員(%)	保護者(%)	評価	7% 木 C 麻 歴	以日水
	【教職員】 学校は、懇談や各種通知、ホームページ等で学校 の運営方針や教育活動の様子を保護者や地域に	А	60%	58%			よりホームページが閲覧しやすいように、外部機関の協力を得て、レイアウトやデザインの改訂を行う。ホームページに掲載する内容や回数などは学部や分掌部で偏りがないよ
	分かりやすく伝えている。	В	40%	31%	_ 	◆便りやホームページの更新回数や内容について検討する必要がある。	う、年度始めに方針を示し、周知をする。 ・校務の電子化に関連して、R4年4月から保護者宛通知の一部をホーム ページの保護者専用ページに掲載することで、いつでも閲覧できるように
(1)	【保護者】 学校は、懇談や保護者会等の説明、ホームページ、 学年だよりや進路のたよりなどを通して、分かりやす、 〈伝えている。	С		4%		<i>₹1,</i> -0,9-0,	する。掲載情報は、1週間単位で一斉メールで連絡し、保護者に知らせる。
		D		2%			
		Е		1%	<u> </u>		
	【教職員】 学校は、学校間交流や居住地校交流、地域交流や 地域貢献活動等を通して、児童生徒の経験を広	Α	62%	62%			・各学部で行っている間接交流の内容を校内で共有し、それぞれの学部で 行う交流活動をさらに充実できるようにする。 ・新型コロナウイルス感染症の感染状況に左右されるが、地域交流や地域
	め、社会性の育成を図っている。	В	38%	27%		◆コロナ以前と比較すると回数や活動内容の制限が必要となった。	貢献活動は、感染対策等を十分に行い、なるべく実施できる方法を模索し ていく。また、ホームページや地域連携だより「いまとく回覧板」等を活用し、学 校の取組について、地域や保護者に周知することを継続する。
(2)	【保護者】 学校間交流や地域貢献活動、また福祉施設や企業等における体験や実習など、地域と連携した教育活動を行っている。	С		1%		◆[E分からない]については、質問事項に校外学習が入っていなかったことで、該当しないので分からない、と選択した保護者	
		D		2%		もいたと思われる。	
		Е		4%			
	【教職員】 学校は、早期教育相談や学校見学会、巡回指導 等を実施することを通して、地域のセンター的機能	Α	66%			や見学会を実施することで次年度の就学や入学に向けた準	・今後も、地域のセンター的機能を果たすために、早期教育相談や学校見 学、巡回相談等を継続する。 ・新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、実施方法や内容等を検
(0)	を果たしている。	В	34%			◇日光市からの依頼による巡回相談や県立高校からの支援 要請を受けて、ケースに基づいて先方の担当者と情報交換を	討し、計画的に事業を実施する。 ・今後もさらに増えてくることが予想されるため、担当者が中心となり、関係
(3)		С		/,		行うことができた。	する教員と連携を図りながら、組織的に対応をしていく。
		D					
		Е					

令和3年度 教職員・保護者アンケート結果及び評価及び改善策(案)

評価基準 ◎十分達成されている ○おおむね達成されている △半分程度達成されている ×努力が必要である 自 学校運営方針/具体的取組(評価の観点) アンケート状況 \exists 成果と課題 改善策 評 3 新学習指導要領を踏まえた新たな授業改善 教職員(%) 保護者(% ・客観的に評価できる基準を作成し、適宜評価しながら取り組む。 【教職員】 ◇対話的な学びとは何かを考える機会をもち分析したことで、教師が 学校は、児童同士(または教師と)で話し合ったり、 77% 共通の見解をもって実践を重ねることができた。 学部で研修する際に、自己評価する機会を設ける。 53% 協力して活動したりする場面を設定し、対話をしな ◇課題別研修の際に、各学級の授業を紹介して児童の変容を確認し、 |•1年間で完結させず、今年度の成果を基に今後も継続して取り組 がら自分で考えたり、学びを深めたりすることがで 自己の授業作りに生かすことができた。 きる生活単元学習の授業を行っている。 ◇保護者から高い評価が得られたことから、学部としての取組が理解さ┃•保護者会で学部の取組を説明するとともに、随時、学級(学部)だ В 47% 19% よりや個別懇談、HP等で児童の様子を知らせる。 れたと思われる。 (1) ┃・「対話的」という文言が、会話やコミュニケーションに困難さがある 小学部 学校は、児童同士で話し合ったり、協力して活動し ◆教師にとって、実践の成果が実感しにくい。 児童生徒の保護者からすると理解しづらいのかもしれない。「対話 C 0% ◆保護者の評価は高いが、「E分からない」という回答も少なからずあ 的」の説明を保護者会や懇談、学級だよりなどで伝えていくと良 たりする場面を設定した授業を行っている。 D 0% Ε 4% ◇新学習指導要領に則り、中学部3年間で学ぶ理科・社会的な学習内↓・今年度の実践を基に、年間指導計画の指導内容等を加筆訂正 【教職員】 学校は、生徒に分かりやすい理科・社会的な内容の 31% 50% 容を精選し、計画を立てて実践できた。実験や観察などを取り入れて し、指導方法や手立てについても引き継いでいく。 授業を実践している。 学習を行うことで、生徒自らが主体的に学習する場面が増えた。 •保護者会や懇談、学部だよりやHP等を活用して学習の様子や生 ◇課題別研修の際に、各学年における取組について授業ごとにまとめ |徒の変容等を積極的に伝え、共有できるよう説明の仕方、資料提 て共通理解を図り、指導改善や生活に生かす手立てについても検討す、供の仕方を工夫する。 36% В 69% •学習の成果物(掲示物等)を他学年の生徒に見せる機会を設 ることができた。 け、他学年の学習や他の分野に興味関心を広げられるようにして (1) 【保護者】 |◆保護者アンケートから「E分からない」の回答が1割程度あった。実践や|いく。 中学部「アオムシの観察、地図作り、磁石等の学習により、お 0% 生徒の変容等を保護者に丁寧に伝える必要がある。 子様の理科や社会に関する興味・関心が広がった ◆研修や公開授業を除き、他学年の学習実践について、教員、生徒と と感じる。 もに知る機会が少なかった。 D 0% F 14% 【教職員/保護者】 ◇課題別研修に取り組む中で,教員間で発達段階ごとのねらいを共有┃・今後も継続して、教員間で共通理解を図り、取り組む。(日常的に 学校は、卒業後の生活を意識して、発達段階や障 89% 42% し、指導場面で生かすことができた。 実践を積めるようにする) 害の状態等に応じて生徒が自ら表現したり、他者と ◇生徒同士で話し合う場面を設定したことで、他の場面でも生徒同士 関わったりできるよう指導している。 で言葉を掛け合う場面が見られた。 授業参観や懇談、学部だより、HP等で取組について継続して発信 |する。さらに、指導場面や内容、さらに生徒の変容も分かるような内 ◇決まった報告や挨拶などの言葉を繰り返し行うことで、自信をもって В 6% 47% 言えるようになってきた。 容となるよう工夫する。 (1) 高等部 |◆具体的な指導・支援内容やその成果を保護者に丁寧に説明する必 要がある。 D 0% 0%

(2)	【教職員】 学校は、育成を目指す資質・能力の三つの柱を各 教科等と関連づけPDCAを確実に行いながら授業 づくりを行っている。 【保護者】 学校は、お子様にとって分かりやすい授業を行って いる。	A B C D	48% 52% 0%	64% 24% 1% 1%		員の助言も受けながら授業改善に取り組むことができた。	・具体的な取組内容を年度始めに明確にする。 ・夏季休業中など、時期を決めて授業作りに関してチェックする機会を設ける。 ・学級(学部)だよりや、保護者会、個別懇談等で保護者に伝える。
	【教職員】 学校は、児童生徒が興味・関心をもって取組み、児童生徒同士や教師との対話や表現活動等を通して学びが深まるような授業を実践している。	A B	64% 35%	61%		◇課題別研修の際に、授業実践に関する検討や情報交換を行うことができた。 ◇公開授業、授業研究会を実施し、当該学年のみならず、他学部の教員の助言も受けながら授業改善に取り組むことができた。 ◇他学年や他学部の授業実践を参考にした授業改善を行うことができた。	・取組や成果に対する評価基準を元に客観的な評価ができるようにする。 ・学級(学部)だよりや保護者会、個別懇談等で保護者に伝える。
(3)	【保護者】 お子様は、生き生きと学習に取り組んでいる。	C D	0%	1%	l K	◆授業の改善状況や児童生徒の変容を客観的に捉えることが難しい。 ◆学校の学習活動の取組について、より多くの保護者が分かるような伝え方の工夫が必要である。	
	【教職員/保護者】	E		3%		◇学校全体でタブレットや大型モニターを活用した授業実践を共有す	 •特別支援教育における活用方法について、研修、共有、実践を継
	学校は、発達段階や障害の状態等に応じ、大型モニター、タブレット、学習アプリ等を活用した授業に取り組んでいる。	Α	56%	48%		ることで、自らの実践に生かそうとすることができた。 ◇個別学習、集団学習、行事といった活動形態による実績が積まれつ	続し、教員が一定のスキルを習得できるようにする。 ・学級(学部)だよりや保護者会、個別懇談等で保護者に伝える。 併せて、授業参観や行事等の機会に、実物や実際の使用場面を
	「女グル丘グして いる。	В	40%	22%		◇オンライン学習の試行により、今後の課題を明らかにすることができ た。	
(4)		С	4%	7%	0	◆校内の取組が少しずつ始まったところであり、課題も多い。 ◆ICTの活用、特にタブレットの使用状況等、校内の取組について、保護 者に丁寧な説明が必要である。	
		D	0%	1%			
		Е		18%			

学校関係者評価結果及びそれに基づく改善策

各方針ともA、B評価が多かったことや、防災教育についてメディアを通した発信等もあったことから、学校の取組に高い評価をいただいた。 ICTを活用した学習活動については、取り組み始めたところではあるが、さらに研修や実践を積み重ねながら子どもたちに積極的に活用できるよう計画する。 また、コロナ禍で保護者や地域の方達が直接学校に来て、学習や生活の様子を見たり、話を聞いたりする機会が少なくなっていることから、今後も保護者会、学部だより、ホームページ等を工夫して丁寧な情報発信に努める。